

緑の風

JRW JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2026年3月11日 No.81

東日本大震災から15年

仲間との「助け合い・支え合い」を大切にしよう！

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災から15年が経過しました。犠牲となられた皆さまのご冥福を心からお祈り申し上げます。

私たちは発災直後からボランティア活動などを取り組み、被災住宅での生活再建のお手伝いや、仮設住宅の皆さんへ花を届ける取り組みなど、組合員の生活再建と鉄道の復旧、地域の復興に努めてきました。

また、鉄道の復旧作業や、計画停電での臨時ダイヤ、原発事故での避難に伴う兼務発令など、業務上での苦労も余儀なくされました。私たちは組合員へのカンパ等を通じ、お互いに助け合い、支え合って乗り越えてきました。

自然災害が激甚化する中、改めて「抵抗とヒューマニズム」の精神を第一に、これからも「助け合い」を大切に取組んでいきましょう！



「いのち」を預かるプロとして、職場現実に立ち向かおう！

東日本大震災では、命を最優先する職場議論を日常的にしていたことが、的確なお客さま誘導を判断できた要因と言えます。一方、当時と比べて各系統では深刻な要員不足となり、その影響で訓練を受講する余裕すら無くなるなど、異常時対応力が弱くなっていると言わざるを得ません。

特に、「融合と連携」や「組織再編」による多能化によって、複数の職場での勤務や、一人三役などが当たり前になっています。手広く業務をこなす一方、線区や駅の特情、仕事に対する理解が浅くなり、「いざ」という時の判断・行動に不安があるという声も少なくありません。また、ワンマン運転拡大に伴い、避難誘導のあり方にも課題があります。お客さまの「いのち」を預かるプロとして、今の会社施策のままで良いのかを検証し、企業防災の観点で改善に向けて「自らの意見」を堂々と主張しましょう！

また、職場では「被害者が加害者にされた！ JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」や「不当労働行為」、「ハラスメント」など、社員との信頼関係を壊すような事象が発生しています。異常時に「職責を超えて一致協力」するためには、人を大切にできない職場現実には毅然として立ち向かうことが大切です。

想定外は起こりうることに踏まえ、原発問題を考えよう！

福島第一原発事故では、常磐線が長期にわたり寸断されると共に、水戸地本や仙台地本の組合員・ご家族を中心に故郷を追われ、生活が一変しました。そのことを決して忘れてはなりません。そして、どんなに点検をしても老朽化等で想定外のことが起こりうることを、私たちは鉄道の事故・事象で学ぶことができました。原発も同様で、放射能を帯びた複雑な設備をメンテナンスし続けることは並大抵ではありません。事故が起きれば取り返しがつかないのが原発です。だからこそ、私たちは「脱原発」を訴え続けます。

「いのち」を大切に作るJR東日本グループをつくるため、

JR東労組に結集し、声を上げよう！